

権威

復活の主イエスの「私には、天においても、地においても、一切の権威が与えられています。」(マタイ28:18)という言葉は、聖書における「権威」の教え全体の中心である。

1) 聖書において「権威」と訳されていることばの意味

a. 新約聖書において、主に「権威」と訳されている言葉はeksousiaであるが(新改訳聖書第三版の新約聖書部分では、「権威」と訳されていることばは殆どがeksousiaである)、これは、dunamisが単に「そのものの力」を表すのに対して、もともと「自由である、許されている、合法的である、できる」という意味のeksestiから出た名詞で、支配する権利とか、行為する自由・許可・力・権威などを表しており、合法に自由裁量を実現する力(権威)を有するという意味で、「公認された力」を表す。(TWNT vol.3, p.560f., ゲルデンハス「最高の権威」山田和明訳 聖書図書刊行会 p.10) このもともとの意味の、「処分する権利」を表す意味から、ディアスポラ・ユダヤ人におけるラビ的用法の影響もあって、新約聖書では、主に、神の絶対的で主権的で自由な力(権威)、および、そこに発する権威を表現することばとなっている。そして、天においても地においても一切の権威が委ねられているという、われわれの仲保者であられるよみがえりの御子キリストの王権に、究極的に帰する概念として、用いられている。

b. 旧約聖書においては、「権威」を表す表現は特定されず、「権威」の概念は、「力」や「偉大さ」といった一般的言葉で表現されている。(だから、KJVでは、「authority」という英訳語はエステル9:29と箴言29:2のたった二回しか使われていない。) しかし、詩篇54:1が「あなたの権威によって私を弁護してください」と語るように、旧約聖書における権威の概念は、やはりこの「神の権威」、または、神に由来する権威であり、「陶器師の陶器に対するような」、世界をあまねくみこころのままに支配される、神の永遠不変の絶対王権による権威である。そして、その王なる世界の創造主が、人類を救うべく、契約の主として神の民(イスラエル)の王となられるみこころが、旧約聖書で述べすめられるにつれて、神の「権威の啓示」がより具体的にあらわされ、特に、預言書において、その神の権威は、やがて来るみ国においてあらわされるべく(ダニエル7:27)その王なるメシヤ・キリストに集約していき、新約聖書のキリストとそのみ国による神の権威の本格的啓示につながって行く。また、旧約聖書は、預言者・祭司・王という油注がれて任職される三つの職によって、キリストの権威の執行形態を預言している。

c. 聖書においては、この世における人間をはじめ、すべての被造物の持つ権威は、みなこの神の絶対的権威を前提にしており、神によって委ねられて初めて成っているものとみなされている。すなわち、まことの「権威」の源は神のみであり、すべての権威は天にあるものも、地にあるものも、その「権威」から出ており、まことの「権威」の帰結は、世界をみ国とし、支配されるキリストのみに帰する。

2) 「権威」という日本語の持つ意味のゆがみの修正の必要

このような「権威」の聖書的な意味構造に対して、日本語の「権威」ということばの意味

は、英語のauthorityの持つ意味以上に、新約聖書の意味からかけ離れているので、この聖書、特に、新約聖書の「権威」の意味を理解する上で、日本語で「権威」と訳されているところの意味のゆがみは、注意深く学ばれ理解され修正されなければならない。

日本語の「権威」ということばは、(1) 権力と威力、すなわち下位の者を強制し服従させる力、または、(2) 専門の知識や技術、すなわちその方面で最高であると一般に認められていること、または、人を、表している。(日本国語大辞典 第七巻P.270, 小学館) これは、英語のauthorityということばの意味と、特に(2)において重なる。しかし、新約聖書のeksousiaの持つ「自由裁量権」という原意は、日本語の「権威」ということばからは出てこない。結果としては、(1) 下位の者を服せしめる威力、(2) 最高の専門の知識または技術、という両面の大づかみなニュアンスでは、新約聖書のことばと日本語の訳は共通してはいるが、日本語は、その服せしめる威力が主に強制から出ており、新約聖書ではそれが自らの保有する自由から出ている点で、ニュアンスの方向が全く違っている。そして、日本語では、人が人の上にふるうものとししか考えられていないが、新約聖書では、基本的に神のみのもので、それが人に委任されているに過ぎず、人を人の上に絶対的に立てない。ゆえに、聖書で「権威」ということばを読むときに、それが神の権威にせよ、キリストの権威にせよ、教会や聖書の権威にせよ、あくまでも神の主権的自由から出る良きものとしての権威であって、われわれの間にある、他の人を抑圧するような人間の権威のようなものではなく、単なる人間の偉さを現すものでもなくて、本来「ゆだねられた責任について自由に良く支配する力」の意味を表す言葉として、大きく読まなければならないことを、日本人のわれわれは意識しなければならない。この国では、多くの人が、この文化的背景の違いが産む「権威」への誤解から、聖書に反発を感じたり、聖書の権威に服しその恵みに自分を委ねる信仰を妨げられたりすることがあるからである。

3) 新約聖書における「権威」についての啓示の展開

a. 特に、新約聖書の福音書と使徒の働きにおいて、権威という言葉が用いられるときは(ほとんどがeksousiaであり、まれにdunamis「力」であるが)、(1) まず、主イエスのみことばの権威をあらわす(マルコ1:22、ルカ4:32, 36)。一切を支配される神の意思をあらわして真理の力を持つみ言葉通りに、裁量し、実行し、みこころを自由に実現する権威である(マタイ8:9)。(2) そして、その権威は、実行するための力と召しを伴って、弟子たちに委ねられる(マルコ3:14-15、ルカ9:1)。具体的には、(3) まず、悪霊を支配し追い出し(マタイ10:1、マルコ1:27)、敵に打ち勝ち(ルカ10:19)、悪しき者をゲヘナにでも投げ込む(ルカ12:5) 権威である。(4) さらに、主がご自身の自由からご自分のいのちを捨てまた得たもう権威(ヨハネ10:18)、永遠のいのちを与えるために人を支配し、聖霊を受けさせ、罪を許し、救われる権威(ヨハネ17:2、マタイ9:6、使徒8:19)、そして、その上で、さばきを行われる権威(ヨハネ5:27)、さらに、神の国を実現する権威(マタイ28:18)である。(5) そのほかとしては、支配者に授けられる権威についても言及があり(ルカ22:25)、支配者

は、人を主のごとく動かし（マタイ 8：9）、捕縛し、釈放し、処刑するが（ヨハネ 19：10－11）、それが神からゆだねられたものに過ぎないことが言われている。

b. 次に、新約聖書の書簡と黙示録において、権威という言葉が用いられるときは（これもほとんどが *eksousia* であるが）、主に、次の意味がある。（1）神から、立てるためまたは裁くために、人に委ねられた権威（教会＝1コリント 5：4、2コリント 10：8、13：10、1テサロニケ 2：6、テトス 2：15、2ペテロ 2：10、黙示録 2：26、20：4／支配者＝ローマ 13：1－3、コロサイ 1：16、テトス 3：1／家庭（夫）＝2コリント 11：10）。（2）やがてキリストのもとに服させられる権威（1コリント 15：24、エペソ 1：21、コロサイ 2：15、1ペテロ 3：22、ユダ 25）。（3）キリストのかしらとしての権威（コロサイ 2：10－11、黙示録 12：10）。（4）現在世界を支配している諸権威（エペソ 2：2、3：10、黙示録 6：8、14：18、17：12、18：1、13）。（5）神にそむくサタンの権威（黙示録 13：2、5、7、12）。つまり、パウロ以降の新約聖書では、まことの「権威」が神からのものであることと、よみがえって神の右の座に座したもうキリストの王権が繰り返して明らかに示されているが、サタンのこの世の諸権威との対決の中で、人を救い、教会を立て、み国を来たらせるものとして、かしらとしてのキリストの権威とその権威を委ねられた人々が描かれる。

c. 以上、新約聖書における「権威」についての啓示の主な展開は、三つの段階にまとめることができるだろう。（1）まず、神の絶対的権威である。（2）そして、キリストの救い、また、神の国をもたらす王権である。（3）さらに、教会に委ねられた権威である。キリストから委任された使徒の権威が、現在、教会にゆだねられており、聖霊の逐語靈感によって文書化された聖書により、その権威は恒久化されている。その権威を御霊によって用いてキリストは、福音宣教を進め、人々を回心させてご自身の王権のもとに服せしめ、罪の世界の諸権威を裁き、栄光の神の国の到来に向け備えを進めておられる。

また、以上の三つに伴うものとして、社会の権威（王と政府、及び、結婚と家庭において、神から委ねられて、まことの王であるキリストに仕える権威）、および、この世の権威、または、サタンの権威（委ねられた神の権威を乱用・僭称し、神に敵対しようとするが、結局、神の許容の下で滅ぼされるために存在している、一時的にこの世を支配する権威）というような聖書の表現について付言すれば、聖書における「権威」について、より行き届いた視野が与えられよう。

神の「権威」は、キリストが、私たちへの救いの恵みの契約を成就され、その仲保者的王権により、神の国を実現されることによって世に表れ、神の栄光を究極的に表すのである。